

目指す学校像	学校の伝統と地域の実態を踏まえ、「人に学び、社会に学び、自然に学ぶ」魅力ある学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律と個別最適化、探究化を、教育デジタルトランスフォーメーションを通して実現 2 一人ひとりの多様な幸せ(Well-being)を実現する未来の教育の実現 3 創立150周年記念事業に向けた取組等を、コミュニティー・スクールを通して推進 4 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
年度		年度目標			年度評価		実施日令和5年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査(R3)や、市の学習状況調査(R1)では、国語・算数ともに、市平均と比べ、課題がある状況である。 ○日頃の学習の様子から、学級には、様々な特性をもつ児童が存在し、学習指導上、配慮を要する児童の割合が高い。 (課題) ○学級には、【浅い】理解から【深い】理解までの多様な児童が存在する中で、特に習熟の差がある「算数」において、一定の学力層に焦点を当てざるを得ないこれまでの発見学習は、本校児童の実態から限界がある。 ○習得・活用の「活用」場面で、協働学習から学習の有用性を実感させ、学習意欲を向上させる必要がある。	・算数における「教えて考えさせる授業」の実践 ・1人1台端末を効果的に活用した授業の日常的な実践 ・地域の「人・社会・自然に学ぶ」魅力に溢れた【馬宮東小版STEAMSTIME】の創出	①「学校課題研修～全ての児童が生き生きと学ぶ授業づくり～」の深化 ②「教えて考えさせる授業」と「問題解決的学習」の効果的な実践 ③「これまでの授業」と「1人1台端末を効果的に活用した授業」のベストミックスを図る	①算数において、6月以降、これまでの指導から脱却し概ね8割以上「教えて考えさせる授業」を実践できたか。 ②算数以外の教科で、「教えて考えさせる授業」の効果的な実践ができたか。 ③1人1台端末を効果的に活用した授業が日常的に実践できたか。	①算数における「教えて考えさせる授業」の実践について教員の約8割が達成、約2割が未達成。 ②算数以外の教科では、達成・未達成が各教員約5割ずつ。 ③1人1台端末を効果的に活用した授業の日常的な実践は、87.9%の教員が達成。	A	・全国学力・学習状況調査(R4)では、国語・算数・理科ともに、市平均と比べ、大きな改善が見られた。 ・児童は98.7%が「授業が分かりやすい」と回答し、昨年より2.5ポイント上昇。 ●今年度同様の教育実践を日常的に継続していく。	◆「教えて考えさせる授業」をはじめ全ての児童が生き生きと学ぶ授業づくりに3年間継続して取り組まれた成果として、今年度の全国学力・学習状況調査結果に大きな改善が見られたことは大変素晴らしい成果である。
2	(現状) ○医療的ケアを必要とする児童や、日本語に課題のある児童、不登校や不登校傾向の児童、様々な特性をもつ児童など、多様化している。 ○現在の教室の中にある多様性を、主として、学級担任1人が、児童への指導に当たっている。 (課題) ○コロナ禍や、社会情勢に対するストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○市の「Growth」の前に、本校としての「不登校や不登校傾向の子どもたちの居場所となる教室」の体制、仕組みづくりが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・ICTを活用した学習指導の実践 ・「不登校や不登校傾向の子どもたちの居場所となる教室」の体制、仕組みづくり	①月に1度の生徒指導委員会において子どもたちの様子を全職員で共有し、ケース会議等組織的な対応の充実により、個に応じたきめ細やかな支援を行う	①情報共有・共通理解を図った子どもについて、生徒指導主任・教育相談主任・特別支援教育コーディネーターが中心となり、担任のみに抱え込まず、組織的な支援が日常的に実践できたか。	①「担任のみに抱え込まず(抱え込まず)、組織的な支援が日常的にできた」との教員回答が100% 「困ったときや悩んでいるときに先生が話を聞いてくれる」との児童回答が96.3% 「学校は児童をほめたり、努力を認めたり、温かく接している」との保護者回答が95.1%で昨年度より24.5ポイント上昇。	B	・不登校の子どもたちが、担任の働きかけ・組織的な対応などを通して、学級の中に入り、諸行事にも参加するなど大きな改善がある一方で、新たに不登校傾向となる子どもたちもいる。 ●教育相談・生徒指導等、日常の指導に生きる教員研修を実施し、力量を高めていく。 ●全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適化学習」(誰一人取り残すことのない学習指導・指導の個別化と学習の個性化)の各教科における具体化に係る教員研修を実施する。 ●馬宮東小なりの「居場所づくり」の職員共通理解を図ったが、子どもにとって学校の一番の居場所は「担任の懐」であることを肝に銘じ、教育愛溢れる人間教育を継続していく。	◆「担任のみに抱え込まず、組織的な支援が日常的にできた」との回答が100%は、チームで対応している証明で、安心感があり、素晴らしい。 ◆「学校は児童をほめたり、努力を認めたり、温かく接している」との保護者回答が昨年度より24.5ポイント上昇が見られており、子どもが家庭に帰って保護者に学校の様子をよくお話していることが推察される。 ◆教員ができることには限界があるので、スクールカウンセラーなど様々な専門家と連携して、子どもたちへの支援に当たることが大切である。
3	(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、児童に「付けたい力」について熟議を重ね、【やさしく かしく たくましく】を決定し、学校・家庭・地域が取り組むこと周知してきた。 ○本校は、本年度、創立149周年の年に当たり、学校・家庭・地域が協働して、150周年記念事業の準備に当たる年である。 (課題) ○今年度は、児童に「付けたい力」を、地域住民、地域に集う全ての人々と共有する。さらに、実現に向けた具体的な行動を起こす。 ○150周年記念事業に向けた学校・家庭・地域の協働体制を作り上げ、実施していく。	・150周年記念事業実行委員会を中心として、学校・家庭・地域が協働し、子どもの笑顔が輝く事業を創出 ・子どもが読書に親しむ意欲の向上と読書量の増加 ・子どもの居場所となる教室の地域参加	①学校・家庭・地域で一体となって、150周年を記念する事業を創り出し、その取組を通して、コミュニティー・スクールの体制を具現化する	①150周年記念事業に向け、学校・家庭・地域がコミュニケーションを活発に行い、アイデア溢れる魅力的な事業の準備が整い、共に連携・協働する体制が構築されたか。	①創立150周年記念に係る各種準備委員会を職員と保護者との協働体制を構築し、協議・準備を積み重ねている。 郷土に誇りと愛着をはぐむよう「郷土かるた」の作成に取り掛かり、地元地域の郷土史研究会や地域の関係の方々や連携ができた。子どもに主体的参画を促し、特別活動を通して育成が実現できるよう、文科省安部恭子視学官を招聘した研修を3月6日に実施する。	A	・大宮レイボックホールを借用し全児童・職員・保護者・地域が一体となった「記念式典」「創立150周年を祝う会」の開催を準備している。 ●NHK18フェスのように、会場に参集している人と卒業生・地域の方々を結んで校歌を歌うなどおやじの会と検討したが時間差などの課題があり、他の改善策を探っていく。 ●「家で本を読むことができています」との児童回答は77.7% 「家庭で本を読むように働きかけている」との保護者回答は63.2%であり、テレビ朝会でも児童に紹介したように地域には魅力的な図書館があるので、保護者にも周知し、読書環境の改善を図っていく。	◆レイボックホールを借用して、全児童・全職員・保護者・地域が一体となって、創立150周年を祝う会を開催できるような準備を進めていることは極めて素晴らしい。 ◆地域と協働し、郷土に誇りと愛着をはぐむ「郷土かるた」をPTAの支援も受け、マップづくりも進行しており、今後、児童が絵札づくりに参画することは、とても良い取組である。
4	(現状) ○1人1台端末を活用した効果的な授業について、エバンジェリストを中心に、具体化してきている。 ○高学年教科担任制を始動した。 (課題) ○1人1台端末の効果的な活用について、定期的に情報交換を行い、学級差を生じさせない取組が必要である。 ○授業準備等を効率的に行い、7時間45分勤務で業務を終了できる職場づくりが課題である。	・学校職員一人ひとりが力を発揮し、学校に集う子ども・職員・保護者・地域の誰もが居心地のよい馬宮東小学校を創る研修の実施	①学校課題研修に取組み、研究本発表(11/18)を通し、さいたま市の教育水準向上を図る ②全ての教員が授業改善に取り組み、学期に1回以上、授業を公開する ③1人1台端末を効果的に活用する指導方法について、定期的に全職員で学ぶ	①研究授業者のみならず、馬宮東小学校職員の総力戦で、学校課題の解決に向けた取組ができたか。 ②学校課題の解決に向け、全ての教員が【授業改善】に取組み、学期に1回以上、授業を公開し、学習指導力の向上が図られたか。 ③1人1台端末を活用した指導について、月に1回以上の情報交換ができたか。	①「馬宮東小全職員の総力戦で学校課題の解決に取り組めた」との職員回答が90.9% 研究本発表では、九州・東海・関東各地から87人の参会者があり、研究を深めた。 ②「学期に1回以上、授業を公開し、学習指導力が向上した」との教員回答が93.9% ③「1人1台端末を活用した指導について、月に1回以上、情報交換ができた」との教員回答が84.8% リクルート社から、全国・さいたま市の学校の状況と比べ、馬宮東小の活用率がかなり高いと評された。	A	・本市の課題解決のため、市教委から研究指定を受け、東京大学植坂友理先生を招聘し、深い理解を目指す授業改善研究に、3年間取り組んだ。 ●来年度の学校課題研修の在り方については、現在、研修推進委員会で、協議を重ねており、研修全体会で、方向性を定め、取り組んでいく。 ●授業準備等を効率的に行い、7時間45分勤務で業務を終了できる職場づくりについて、他校の先進事例から学び、生かしていく。	◆馬宮東小学校で学ぶことができる子どもたちは、幸せである。 ◆リクルート社から、全国・さいたま市の学校の状況と比べ、馬宮東小の活用率がかなり高いと評され、素晴らしい。 ◆教職員の心身の健康確保が大切である。学校・家庭・地域が当事者意識をもち、それぞれの役割を果たすことが大切である。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等